

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291300180		
法人名	株式会社アース		
事業所名	グループホームまーがれっと長泉(2ユニット共通)		
所在地	駿東郡長泉町下長窪645-2		
自己評価作成日	令和6年3月12日	評価結果市町村受理日	令和6年 4月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和6年 3月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“生活の場”へのこだわり。
 コロナ対応に関して制限緩和がスタートしました。とは言え以前であれば、家族や友人ともっと交流ができ、常に心の栄養をとり入れる機会がありました。少しずつ、市井の感染状況を確認しながら、入居者の皆様に、楽しみ・喜び・悲しみ・怒り・・・を感じていただける機会を増やしていきたいと思えます。今後も何げない日常生活を過ごしていただくための生活リハビリを中心に、生活提案をしていきます。ご入居者様が、お母さんとしてやってきたこと、お父さんとしてやってきたこと、を少しでも続けていただけるような時間づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の重度化により介助量が増え医療連携が必要な方が数名いる中でも、認知症になる前の生活が入居後も継続できるように、「居室」「共有の場所」「ホーム」が生活の場であることにこだわりを持ち、意識した支援を行っている。面会も制限するのではなく感染のリスクはあるが、それ以上に家族との面会を大切にしたいと考えている。また管理者が地域の民生委員を担っており、入居者が地域の挨拶運動に参加している。施設内にとどまらず出来る事を出来る形で社会参加をしている施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、経営理念を唱和している。 フロアミーティング時に“地域とのつながり・地域密着”について、管理者より繰り返し伝えている。	理念は目に留まりやすいエントランスに掲示されている。朝礼時の唱和の他、具体的に「快互」とは「お互い様であること。高齢者・認知症だからではなく人として学ばせて頂いて」と意識するように指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の現在、地域交流機会の再開が出来ていないが、管理者が社協や地区長・民生委員との交流を持ち、情報収集にあたっている。地域の氏神様である“城山神社”神主様とも交流を続け、神社行事の情報をお願いしている。	管理者が昨年より民生委員をしている関係もあり、地域の情報を職員と共有することができ、困った時の相談場所の紹介や、行政サービスの理解に繋げている。地域清掃など、奉仕作業に積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が長泉町民生委員となり、常に会合に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面開催にて、ご家族や出席者からの意見書を回収し、必要であれば電話連絡・個別面談をしているが、3月より対面開催を予定している。	書面にて意見を聴取しており、家族からは多くの意見が寄せられている。聞き取った意見により、面会時間の柔軟な対応へ繋がった。併せて行政や区長・民生委員からも聴取しており、次回からはエントランスホールでの開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長泉町北包括支援センターと連携し、認知症カフェ開催準備検討している。	徒歩圏内に包括支援センターがあり、連携しやすい環境である。包括と共同し認知症カフェを計画したり、施設での生活やフォーマルサービスの理解について説明することを計画中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を開催し、意識と取り組みを共有している。	委員会は年4回実施している。管理者及び、各フロアリーダー、サプリーダー、介護職員2名以上で構成されている。スピーチロックに力を入れており人権やハラスメント、接遇、不適切なケア、アンガーマネジメント、理念を学ぶ機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会で確認した取り組みを共有するとともに、施設内研修会において知識と意識を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明を行い、疑問点を解消してから契約締結をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や近隣等ご来設の方向けにご意見箱を設置。ご入居者様からのご意見については、管理者とフロアリーダーを通じて、速やかに職員と情報共有している。	家族より「土に触れる機会」の要望を受け、入居者の中から花の栽培のスペシャリストをリーダーとし、家族の協力を得て花植え会を実施した。役割を持つことや、土に触れる楽しさは、ホーム便りに載せ発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社から運営スタッフが複数名来設し、施設職員との“交流会”を開催し、直接職員からの意見や提案を聞き、反映させている。	給与制度が変更になった。賞与には波があるので、その分を毎月の給与に反映され、ボーナス払いの不安解消に繋がっている。設備の修繕や、備品倉庫を屋外に設置した実績がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社から運営スタッフが複数名来設し、施設職員との“交流会”を開催し、直接職員からの意見や提案を聞き、反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主導で、定期的な研修会(リモート・対面式)を開催している。それ以外の外部研修で職員より参加希望があった場合は、参加支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員とも、現在は個別で交流機会を作っている。今後はさらに積極的な交流が必要と考えている。ただし、個人情報等の守秘義務については十分な注意をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に本人主体であるよう留意しながら、管理者・ケアマネ・職員が繰り返し傾聴し、ケアプランに反映させるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネを中心に、ご家族様の話に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部サービスの情報提供を積極的に実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	経営理念である “快互”～私たちは互いに快い時を提供します～に基づき行動し、ご入居者様との関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話・メール・お便りをこまめに活用して、“施設とご家族と一緒にご本人をケアしていく”意識を持ち続けるようにしている。ケアプランにもご家族参加項目を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため面会は控えているが、遠方の親族や友人・知人と称する方からの問い合わせについては、ご本人様・ご家族様への事前確認をしてから、電話や手紙等を使い、きめ細かな対応をしている。	入居時に家族から情報収集し、馴染みの関係を職員で共有している。生活歴や習慣を大切にし関係の継続に役立てている。居室での面会は事前予約制とし、ランチ持参の会食や、外泊、家族の発表会にも出掛け関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関りのきっかけ作りをし、調整役を担いながら、孤立防止をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された方・在宅生活復帰された方・他施設へ移動された方・長期入院治療のため退去された方等、すべての方のご家族様と定期的なお便りや電話等で、お付き合いを継続させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症によりご本人様からの聞き出しが困難な場合には、ご家族様の協力のもと(本人本位を見失わないよう注意しながら)対応している。	日頃の会話から本人の意向を聞き取っている。会話が困難でも説明や意見を耳元で話すように努め、表情などを観察し意向を捉えている。家族からは本人による意向の優先希望があり支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前だけでなく入居後も、些細なことをこそ注意深く繰り返し聞き出し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のルーティーン整えつつ、マンネリ化を防止し、ひとりひとりのストレングスに意識した生活提案をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会後の時間を利用して、多くのご家族様との話し合いを行っている。面会に来られる機会が無いご家族様とは電話を中心としている。医療機関他の関係者とは綿密に話し合っている。それらをケアプランに反映している。	カンファレンスは全体会議時に行っている。モニタリングは管理者や担当職員が主だが、他の職員からの気づき・意見も大切にしており、プランに反映している。家族には面会時や電話にて意向確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に経過記録をし、職員間で情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	たとえば、大勢のご家族や友人との面会は、時間分散をしたり、ご入居者様それぞれのADLや認知症状に合わせた個別対応を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	制限緩和したとはいえ、地域資源活用を控えてしまっている。今後は傾聴ボランティア地域授産所によるパンの訪問販売、隣接事業所(障がい者就労支援)の協力のもとでの農作業、を予定している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な訪問診療を実施し、緊急に受診が必要な場合には都度対応している。	2か所の病院が月に各2回往診に来ている。訪問看護が施設と契約しており、往診日とは異なる日に訪問がある。全員が週1回は健康管理を含め医療的なケアを受けている。24時間対応できる医療体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による定期的な訪問看護(状態確認および助言)を受け、必要時には訪問看護師からかかりつけ医に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	周辺病院の地域連携室や退院支援室等のSWとの情報交換等は欠かさず行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは入居前に事前説明をして指針をお渡しし、次に状態が変わった時(介護度が上がった時等)、主治医の助言のもと話し合いを行う。場合によっては主治医が中心となりICを行っている。	入居時に施設の方針の説明及び家族の意向を確認している。容態急変時には「意思確認書」により再度確認をとり、本人の思いに沿った支援となる様に、プランを柔軟に対応している。今年度は2名の「看取りケア」を行った実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師の指導のもと初期対応訓練を行っているが、職員のスキル差はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年度年間2回の防災訓練を実施しているが、コロナ感染が2回発生したため、つどスケジュールを変更している。BCPは作成済。	地震による避難訓練及び災害時の通報訓練を実施した。災害時用に8日分の備蓄がされている。地区防災との話し合いはまだだが、災害時には地域住民の一時避難場所になる可能性がある。	付近に避難場所であるグラウンドがありますが、一時避難の可能性を想定し、地域の防災訓練への参加や住民参加による訓練の実施をすることで更に地域に溶け込んだ施設になることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修計画のテーマに“接遇とスピーチロック”を取り入れている。今後も職員の意識確認を目的に定期的に研修を実施していく。	尊厳保持の為にスピーチロックに留まらず、「人権の尊重」「不適切なケア」「スローなケアについて」「アンガーマネジメント」研修に絡め意識づけを図っている。代替の言葉など、職員全員で考え対応するよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が言いづらくない雰囲気づくりを心掛けている。“これでいいですね？”はNGワードとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思確認をしたり、ケアをすすめたりする時には、よりゆっくりと行うことを心掛けています。待つ事を省かないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容への意識を高く持つよう心掛けている。更衣・整容時のケアに時間をかけている。自己決定できる方は、意向を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立発表時間をもうけ、“好き嫌いを否定しない”ようにしている。食前・食後の準備・片づけ等、できる方には手伝っていただいている。	グループ会社で採れた無農薬・減農薬で育った米を提供している。特別食も含め食業者により栄養管理がされている。下膳やテーブル拭きを職員と共に行い、毎食前に口腔体操を実施し食べる機能維持に努めている。家族からの差し入れも受け入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べ方・飲み方を把握し、それを理解し尊重して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの確認または介助を行っている。週に1回訪問歯科診療にて専門的な支援を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の方もオムツ交換の方も、それぞれの出来る事を把握し、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を基に個人のタイミングを見ながら時間で誘導している。本人の排泄サインを見逃さないよう努力している。オムツ使用者でも、座位が保てる方は職員2名対応にてトイレでの排泄を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の生活での水分摂取強化と腹部刺激につながる運動・体操を実施している。 主治医に助言を受けた上で、腹部刺激・肛門周囲刺激等、内服薬の指示と並行して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定をしているが、ご本人様の体調や気持ちを尊重して実施している。また、入浴を身体清潔目的だけではなく、リラクゼーションを観点として雰囲気づくりをしている。目(景色)・耳(音楽)・花(香り)を演出している。	週2回入浴を実施しており、本人の希望を受け時間は柔軟に対応している。花を飾り、好きな音楽を流し、アロマオイル等を使用しリラックスできるような取り組みをしている。地域住民の好意により12月はゆず湯が何度も楽しめた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る事・横になる事だけではなく、(夜遅くまで)好きなテレビを観る事や(夜遅くまで)他入居者様や職員と話す事も、ご入居者様の休息のひとつととらえて、個別性を尊重し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報の定期確認(毎週水曜日に薬が届く)の徹底と、内服薬変更時の情報共有を実施。服薬ロボット導入により誤薬防止をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・食事の準備と片付け・洗濯物たたみ・植物管理等、ご入居者様それぞれに、各人が出来る事を積極的にお願している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外気浴と気分転換の散歩以外には、職員同行による買物、個別対応のドライブや公園散策を実施している。	散歩は日常的に行っており、本人の希望を受け買い物にも出かけている。家族の協力を得て、現地待ち合わせでの外出支援や、桜並木の鑑賞や運動公園など季節に合わせた場所に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人が金銭管理はしていない。施設でお預かりし、ご希望の物があつたら職員が代わりに購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方(職員の支援があれば書ける方も含む)は書いていただき、投函している。電話で話せる方は施設電話を使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キエルキン用大型加湿器を導入して、防カビと室内温湿度の安定を図っている。フロア内は職員手作りの装飾品で季節感を演出している。	時間で、換気やフローア・居室・手摺の消毒を実施している。掲示物には季節感を出し、入居者の年齢、好みに見合うように配慮している。落ち着いて食べる、若しくは過ごすことを考え場面に応じて音楽やテレビを選択し過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチン前にカウンターテーブルを設けている。1階エントランスホールには談話テーブルを設け、ご入居者様にも利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様のご協力をいただき、ご本人様の持ち物や写真等をお持ちいただき、ご本人様の好みに合わせてディスプレイしている。	馴染みの物やこだわりの物の持ち込みが可能である。キャンプ用の椅子や楽器を持ち込まれた方もいる。ベットが苦手の方には薄畳を活用し、布団で対応している。年2回家族にも協力を依頼し衣替えを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員が“ご入居者様のストレンクス”を意識できるよう、ケアしすぎないように心がけている。出来ない事より出来る事を先行しての発想が必要であることを、繰り返し伝達している。		